

青少年の健全育成を進める県民大会

平成 29 年 7 月 8 日 (土) 『小田原生涯学習センターけやき』にて、「平成 29 年度青少年の健全育成を進める県民大会」が「社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり～今、大人ができること～」をテーマに開催されました。

司会は立花学園高等学校の生徒により進行され、オープニングは県立小田原高等学校の弦楽部による演奏が披露されました。20 名を超える部員によるバイオリンなどの演奏は、壮大な世界を感じさせる素晴らしいものでした。

かながわ青少年社会環境健全化推進会議会長 石井一也氏による開会の言葉に続き、主催者あいさつが神奈川県副知事 首藤健治氏、及び小田原市長 加藤憲一氏よりあり、そして来賓が紹介されました。

続いて NPO 法人 子どもと生活文化協会顧問であり小田原市教育委員会委員長の和田重宏氏より「今、大人ができること」をテーマに、基調講演がありました。和田氏が教諭時代や寄宿生活塾『はじめ塾』、NPO 法人での活動を通して感じた若者たちの4つの変化（「遊び方の変化」「考え方の変化」「食事の変化」「働き方変化」）についてお話いただきました。どんな生き物でも「自分で食っていける力を付けて親離れする」。今、大人ができること（しなければならないこと）は子どもに生きる力をつけることであり、そのために何に取り組むべきなのか。「人は台所で育つ」、つまり台所は社会生活に必要な能力「企画力」「マネージメント力」「コミュニケーション力」を育てる場所であり、自分で食べる力をつける場所であるということでした。

パネルディスカッションでは、基調講演講師の和田氏と県立小田原城北工業高等学校校長 改田晃氏をパネリストに、青少年パネリストとして県立西湘高等学校と県立大井高等学校の生徒2名、そしてコーディネーターにフリーアナウンサーの西村奈歩氏を迎え、「大人と青少年、ともに育ち合う」をテーマにディスカッションが進みました。青少年からは「武勇伝を語る大人」や「感情的にものごとを考える大人」「マナーの悪い観光客」が困った大人であると、耳の痛い意見があり、それを受けて和田氏が「年をとってくると心も身体もかたくなる。大人と言えども未完成品」、「努めて柔軟でありたい」そして子どもと大人の関係改善に取り組む必要があると締めくくりました。

最後に石井氏より「青少年の健全育成に向けて、ひとりひとりが何をできるかを考える良い機会になったと思います。」と終了のあいさつがありました。次回は相模原市での開催予定です。(HH)



小田原高等学校弦楽部によるオープニングの演奏



港北区青少年指導員協議会広報紙

港北青指

第 40 号
平成 30 年 1 月 発行
発行者 港北区青少年指導員協議会
編集 広報委員会
事務局 港北区大豆戸町26-1
港北区役所地域振興課内
TEL 045-540-2240
FAX 045-540-2245

港北青指 検索

横浜市青少年指導員研修会

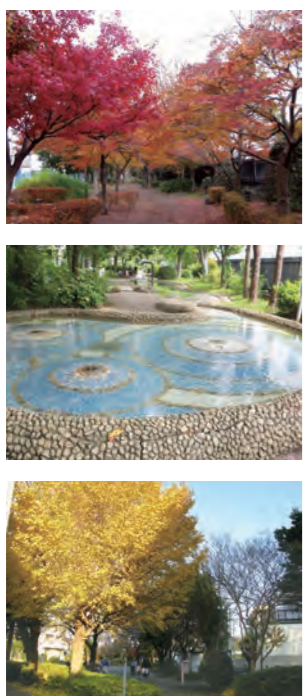
平成 29 年 9 月 10 日 (日)、緑公会堂で「子どもたちと防災意識を共有できる街を目指して」をテーマに横浜市青少年指導員研修会が開催されました。会場ホールでは、緑区各地区の活動を紹介するパネルとともに子どもたちが楽しみながら防災への意識を高められるグッズが展示され目を引きました。

小学校マーチングバンドとして草分け的な存在で、市内の各種イベントでも活躍している「三保小学校ハミングバード」の圧倒的な演奏で始まったオープニングは、「これが小学生の演奏か?」と驚くほど素晴らしいものでした。開会の挨拶に続き、緑区青指の活動と防災への取り組みが紹介されました。ステージ上では、ハミングバードの子どもたちがホールに展示されていた防災グッズを使用したゲームを実演し、日頃の訓練の様子を披露してくれました。

基調講演は東京大学特任教授、片田敏孝氏による「子どもたちの生き抜く力を育む防災教育」の話。災害社会工学の専門家である氏からは、東日本大震災以降の地震や海水温上昇による豪雨・巨大台風発生の可能性など、昨今の「想定外」の各種災害の現状を説明していただきました。合わせて、氏は過去の経験を基にした防災計画の危うさについて警鐘を鳴らされておりました。また東日本大震災に先立つ平成 16 年より釜石市を訪れ、防災への取り組みを指導されており、大震災の際には、その教えを受けていた釜石東中学の生徒たちが適切な誘導を行い、自らだけでなく、近隣の幼児・小学生・お年寄りも津波から逃れることができたというお話があり、特に印象に残りました。救えなかった命に無念を残し、『防災教育は命の教育』と訴える氏の話は、多くの人たちに是非聞いてもらいたいと思いました。(YF)



三保小学校ハミングバードによるオープニングの演奏



遊び場紹介 VOL. 6 新田緑道

北新横浜駅から徒歩約3分

新羽町を南北に走る全長約1.8kmのなが〜い公園が「新田緑道」なのだよ。この公園はいくつものエリアに分かれ、桜や銀杏並木の小径(こみち)が季節を彩ります。スポーツができる広場や夏には水浴びができる池と秋はお祭りに紅葉狩り。そして妖しく光る機械のオブジェが、キミたちを待っている。冒険の扉は開かれる。(KK)



編集後記 遊び場紹介は今号で6回目の掲載となりますが、今回は広報委員有志による取材を行いました。私自身、新田緑道を訪れるのは初めてで、ハイキング気分に参加したのですが、実際に訪れてみて、何か変わったものや面白いものを見つけたりすると、「伝えたい」という思いがひしひしと湧いてきました。自分の目で見て感じたことを伝えることの重要性を改めて認識しました。これからも港北青指は、「活きた情報」をお届けすることを心がけていきたいと思ひます。(HM)

2面・3面でペットボトルロケット大会を紹介しています!

全市一斉パトロール活動

港北区では平成 29 年 7 月 22 日 (土) に 13 地区ごとに夜間パトロールを実施しました。大曾根地区は、夜 10 時より、パトロールを実施しました。大曾根の中心にある大曾根会館より川側山側二手に分かれて、4箇所の公園を回りながらパトロールをしました。住宅街のため夜間の歩行者はほとんどなく、逆にパトロールの重要性を感じました。(AS)

社会環境実態調査

青少年指導員の活動のひとつに社会環境実態調査があります。神奈川県からの依頼のもとに行っており、カラオケボックスやインターネットカフェ (18 歳未満の深夜立入制限の掲示等の遵守状況)、レンタルビデオ店や古書店 (有害図書類の区分陳列等の遵守状況) を訪問し調査しています。今年は 7 月下旬から 8 月上旬にかけて各地区で実施しました。毎年調査を行っていますが、年々店舗の意識も上がり、ほとんどの店舗できちんとした規制が行われていました。

青少年指導員制度50周年記念 第21回 ペットボトルロケット大会



会場：鶴見川樽町公園



選手宣誓

平成 29 年9月3日 (日)、ふるさと港北ふれあいまつりのプレイベントとして位置づけられている、青少年指導員制度 50 周年記念 第 21 回ペットボトルロケット大会が開催されました。1 週間延期もむなしく中止に追い込まれた前年度のリベンジ。心配していた大型台風も過ぎ、まさに台風一過の絶好の大会日和です。

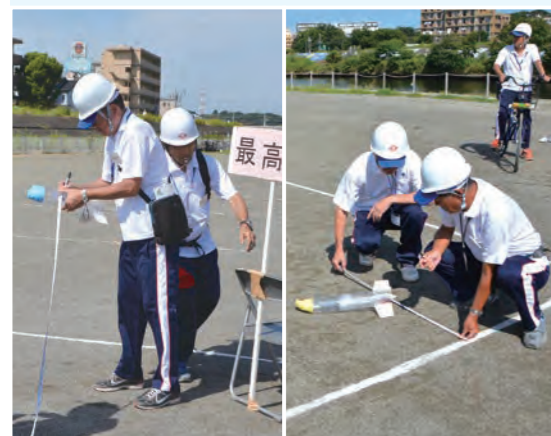
参加者は 322 名、保護者・大会関係者・一般観客を含め約 700 名が鶴見川樽町公園に結集。全員見守り中、次々と青空に打ち出されるロケットを見ておられますと、映画「宇宙兄弟」が宇宙飛行士を目指すきっかけになった大会であることがうなずけます。地元、横浜F・マリノスのマリノスケも大会に華を添えてくれました。

飛距離部門では、台風の名残の爽やかな風も強敵です。風に流されて鶴見川に着水するロケットも。それでも、80m 超えが続出。会場が歓声で湧き上がる中、一昨年の記録を超える 87m の大飛行が出ました。大飛行を横目に、今年も 40 ~ 50m に設けられた「はやぶさ賞」は、参加することにも意義が認められると好評でした。

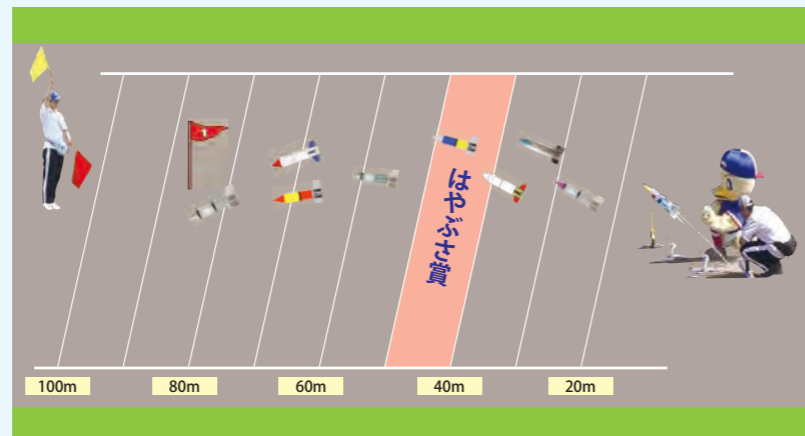
恒例のデザイン部門では趣向を凝らした出品の勢揃い。色とりどりの可愛いロケットに加え男児の黒っぽい作品も複数入賞したのは新しい流れでしょうか。横浜F・マリノスからの特別賞もこの部門に彩 (いろどり) を添えました。

大会中止で流れた昨年度の新企画「ミニロケットを飛ばしてみよう!!」が、今大会で初めて実現しました。従来の 1500ml に対して、500ml のペットボトルを使った小型ロケットの飛行です。初年度の今年、青少年指導員によるデモンストレーションのみでしたが、小さな機体にも関わらず 1500ml 並みに飛ぶことが分りました。1500ml の発射角度ではやや高く上がり過ぎることが分かりましたが、今後への期待が大きく膨らみます。

盛りだくさんの大会でしたが無事終了することができました。みなさん、その夜はきっと大空を飛ぶ夢を見たことでしょう。(YM)



計測の様子



表彰式

飛距離部門



コメント

「まっすぐになるように作る場所が難しかったです。きれいに作りました。来年の目標は 90メートルです!」

飛距離部門			
順位	氏名	地区	飛距離
1位	浦上悠翔	日吉	87m00cm
2位	萬代怜弥	日吉	82m90cm
3位	岸 真白	日吉	82m00cm

デザイン部門

コメント

「空と花」をイメージして作りました。



デザイン部門				
順位	氏名	地区	得票数	
港北区長賞		中山 晃	新羽	39票
ふるさと港北ふれあいまつり会長賞		佐藤祐月	大倉山	33票
港北区青少年指導員協議会会長賞		浅海茉莉	大倉山	20票
横浜F・マリノス賞		五十嵐帆香	大倉山	20票



ペットボトルロケット大会は、区民の親睦や地域連帯意識の高揚、家族のふれあいを深める場となることを目的とします。さらに、リサイクルなどの環境問題について考えるきっかけを提供するとともに、工作を通じて子どもたちの豊かな情操と優れた創造力を養います。